

製品名: Ubr1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19582**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	200kDa

抗原情報

遺伝子名	UBR1
別名	UBR1; E3 ubiquitin-protein ligase UBR1; N-recognin-1; Ubiquitin-protein ligase E3-alpha-1; Ubiquitin-protein ligase E3-alpha-I
遺伝子 ID	197131.0
SwissProt ID	Q8IWW7
免疫原	抗血清はヒト UBR1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 821-870

背景

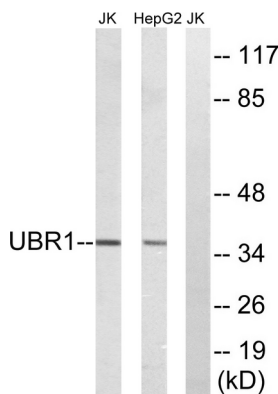
N 末端ルール経路は、ユビキチンシステムのタンパク質分解経路の一つです。この経路の認識成分は、この遺伝子によってコードさ

れており、基質タンパク質の不安定化 N 末端残基に結合し、基質に結合したマルチユビキチン鎖の形成に関与します。これにより、最終的に基質タンパク質が分解されます。この記録に記載されているタンパク質は、RING 型ジンクフィンガーと UBR 型ジンクフィンガーを有しています。この遺伝子の変異は、ヨハンソン・ブリザード症候群と関連付けられています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、発達段階: 胎児膵臓で発現。疾患: UBR1 遺伝子の欠陥は、ヨハンソン・ブリザード症候群 (JBS) [MIM:243800]の原因です。この疾患には、先天性外分泌膵機能不全、鼻翼形成不全などの多発奇形、および頻繁な知的障害が含まれます。JBS 患者の膵臓は UBR1 を発現せず、子宮内発症型破壊性膵炎を呈する。ドメイン: RING-H2 ジンクフィンガーは、古典的モチーフの 4 番目のシステインの代わりに His リガンドを有する非定型 RING フィンガーである。機能: E3 ユビキチン-タンパク質リガーゼは、N 末端ルール経路の構成要素である。N 末端ルールに従って不安定化する特定の N 末端残基を持つタンパク質を認識して結合し、ユビキチン化とそれに続く分解を引き起こす。膵臓の恒常性維持に関与している可能性がある。経路: タンパク質修飾タンパク質ユビキチン化。PTM:DNA 損傷時にリン酸化される。おそらく ATM または ATR による。類似性:UBR1 ファミリーに属する。類似性:RING 型ジンクフィンガーを 1 つ含む。類似性:UBR 型ジンクフィンガーを 1 つ含む。サブユニット:RECQL4 と相互作用する。組織特異性:広く発現しており、骨格筋、腎臓、膵臓で最も多く発現する。膵臓の腺房細胞にタンパク質レベルで存在する。、

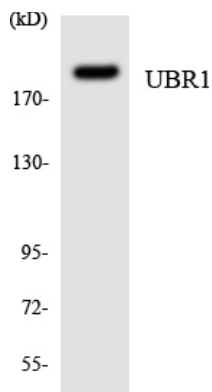
研究分野

細胞生物学; タンパク質分解 / ユビキチン; プロテアソーム / ユビキチン; プロテアソーム

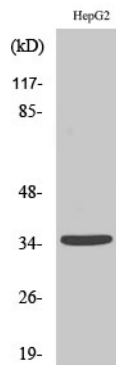
画像データ



UBR1 抗体を用いた HepG2 細胞および Jurkat 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。



UBR1 抗体を使用した HUVEC 細胞溶解物のウェスタンブロット分析。



Ubr1 ポリクローナル抗体を 1: 2000 に希釈し、様々な細胞をウェスタンブロット解析した。二次抗体は 1: 20000 に希釈した。